
編集後記：テレビの番組などで、ある物の面積や容積の大きさを表すのに、東京ドーム何個分とか何杯分と言うのをよく耳にします。この譬えを聞いて、その大きさがわかる人は何人いるのでしょうか。私は東京ドームに行ったことがありませんので、10個分、100個分と言われてもどの程度の大きさなのか全くわかりません。1個分でも大きそうだなということはわかりますので、それはそれで譬えは成功しているでしょう。しかし、数字を挙げるほど大きさを実感してほしいのなら、身近な物で譬えるべきではないでしょうか。例えば味付け海苔何枚分とかお茶碗何杯分とか。ん、数字が大きくなりすぎて逆に実感がわきませんね。

わからない譬えは他にもあります。30年近く前、ラジオの天気予報を担当したことがありました。その頃は決まって「明日の気温は平年並みでしょう」などと言ったものです。「平年並み」ってわかりますか？平年値は30年間の平均で定義されます。また最近は温暖

化で気温の平年値は上昇しています。平年並みがわかる人は貴重です。この件に関しては、この30年の間に改善されたようで、近頃は身近な譬えで「今日と同じぐらいでしょう」と解説しています。

わかりやすいけれども正しくない譬えもあります。夜間の放射冷却が和らいだとき、「雲が布団の役目をして…」などと言います。布団から抱くイメージは隙間なくかぶったときの保温効果ですが、宙に浮いた布団は暖かくありません。この布団の譬えは、そもそも正しくない命名「温室効果」を説明したのでしょうか。

わかりやすく初めに譬えになりますが、譬えは正しいことも重要だと思います。正しくない譬えは探せば他にもたくさんあると思います。「気象で使う譬えの正誤表」なんて記事が「天気」にあればなあ、と思う今日この頃です。

(中西幹郎)